

Kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】

McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology*. 183—238 in McC. Brooks, Ch. and Cranefield, P.F. (eds.): *The Historical Development of Physiological Thought*. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

## 編集後記

▼第九七回の総会抄録号をお届けする。今年是一般口演で五八題の発表が予定され、例年におとらず盛りだくさんの内容となった▼試みに過去十年の一般口演数をみると、第九一回までの前半五年は五〇題以内で推移していたが、九二回からの最近五年では六〇題前後が定着しつつあるようにみうけられる。本学会の近年における隆盛を物語る数字で、まことに喜ばしい▼ただしこれを一会場二日間でこなすとなると、発表時間等に制限が出てくる。いつも大会長が頭を悩ます問題のひとつといえよう▼抄録号についても悩ましい問題がある。以前も当欄で弁明したが、抄録号だけは著者校正をお願いできない。それで編集委員会五名で手分けして校正し、英文タイトルは事前にブルース・アレン氏にも目を通していただいている。原稿どおり印刷されるよう念を入れて校正しているが、不審な用字・送りがな・句読点などが認められてもそれに従うのが道理ゆえ、著者校正に及ぶべくもない。しかし誤植があればその責は編集委員会にある。ただただ誤植の少ないことを願うばかりである▼ところで最近ではワープロ原稿が一層増加し、今回の抄録原稿では過半数に達していた。ワープロ原稿にはクセ字がなく、当然ながら印刷現場で誤植されることが少ない。とはいっても抄録文をビツシリと印字した見にくいワープロ原稿では、誤植の発生率が丁寧に書かれた自筆原稿より高いように思えた▼印刷になった自分の文章に誤植を発見し、がっくりした経験は誰しもあるだろう。ときには論旨にかかわる場合もある。この発生を未然に防止するには他人にも見やすい原稿が第一であり、これにご配慮願えれば誤植もより少なくなるだろうと校正して痛感した。(真柳 誠)